創出価値

あすか製薬による国内の月経随伴症状に対する2023年度の社会的貢献は428億円

子宮筋腫、子宮内膜症、月経困難症などに代表される女性特有の疾患は、患者数が増加傾向にあります。その背景には、生涯の月経回数の増加が挙げられます。女性の社会進出に伴い晩婚化や晩産化の傾向が進み、生涯の出産回数は昔は5回だったのが現在では2回へと半分以下になり、女性の生涯の月経回数は50回から450回へと9倍に増加している*1といわれています。

月経にまつわるさまざまな不調に耐えながら業務にあたり、本来のパフォーマンスを発揮できない女性は国内に約700万人おり、年間の経済損失額は5,672億円との試算があります。

このような状況下において、あすか製薬は、産婦人科領域のリーディングカンパニーとして、女性の月経随伴症状を改善するさまざまな医薬品の提供を通じて、年間428億円の経済損失の回避に貢献しています。

私たちは予防から検査・診断、治療そして予後までを見据えたアプローチで、社会課題の解決に貢献していきます。

*1 Short RV: Proc. R. Soc. Lond B. Biol. Sci. 1976; 195, 3-24.より

月経随伴症状のケアをしなかった場合の経済損失額

1兆703億円

ケアを通じた軽減

月経随伴症状のケアを通じた、経済損失軽減額

5,031億円

うちあすか製薬の医薬品による経済損失軽減額

428億円*2

残された課題

月経随伴症状による現在の経済損失額

5,672億円

経済産業省「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」より算出

月経随伴症状により「欠勤」または「業務効率・パフォーマンスの低下」している女性の労働生産性の損失額を下記の要素を用いて算出。「女性就労者（正規/非正規）」、「有症状・無行動層*3の割合」、「月経随伴症状による欠勤者の割合」、「月経随伴症状による欠勤日数（年間）」、「月経随伴症状があっても出勤する割合」、「出勤者のうち月経随伴症状でパフォーマンスが低下する人の割合」、「月経随伴症状によるパフォーマンスの低下度合」、「月経随伴症状でパフォーマンスに影響を受ける日数（年間）」、「平均賃金（日給）」

*2 算出根拠
「あすか製薬の医薬品による経済損失軽減額428億円」=「月経随伴症状のケアを通じた経済損失軽減額5,031億円」×「あすか製品による経済損失回避割合8.5%」
「あすか製品による経済損失回避割合8.5%」=「あすか製品の服用者数520,127人」÷「有症状・有行動の女性就労者数6,110,000人」

*3 月経随伴症状による何らかの症状があるにもかかわらず対策を取っていない層